

青年一両親・関係

—心理的離乳 その5—

大 西 誠 一 郎

久 世 敏 雄

I 問 題

われわれは、青年一両親関係—心理的離乳その4—(1)において、青年たちが、日常、接する父、母、友達、教師を相談相手として、どのようにみているかという点を明らかにした。そのさい、そうした対人交渉の相手に対する情緒的な関係が、どのようになつているか、という問題が残されていた。ここでは、その残された問題である、青年たちが、父、母、友達、教師と、どのような情緒的關係にあるかを明らかにすることを目標としている。

II 方 法

上述の問題を明らかにするため、ここでは、質問紙によつて調査した。調査の対象、調査期日、有効調査人員については、前述の資料と同じである。使用した質問紙は、つぎの通りである。

調査 PCR—V

[1] つぎの文を読んでもつともあてはまる人を父、母、友達、先生の中から一人だけ選んで()の中に記入して下さい。あてはまる人がない場合には「なし」とはつきり書いて下さい。同じ人を何度選んでも結構です。

- (A)1) 自分の都合は悪くてもその人のためならつくしてあげたい人()
- 2) 何かにつけてすぐ考えに浮ぶ人()
- 3) 一緒にいると感じないがないものたらない人()
- 4) 相手の気持をよく理解してやれる人()
- 5) こまごましたことまで頼める人()
- (B)1) 一緒にいると窮屈に感ずる人()
- 2) その人の前では自分の感情をおさえなければならぬ人()

- 3) お金をかしてくれといえない人()
- 4) 自分の部屋のちらかしているのをみられたくない人()
- 5) ちよつと注意されてもそのことがいつまでも気になる人()

[2] あなたが父、母、友達、先生の四人からつぎにのべるようなことを同じようにされたとき、最もうれしく感じる人、あるいは最も腹のたつ人は誰ですか。父、母、友達、先生のうちから一人だけ書いて下さい。同じ人を何度選んでもよろしい。あてはまる人がない場合は「なし」とはつきり書いて下さい。

- (A)1) 誕生日に贈物をもらつたとき最もうれしく感ずる人()
- 2) 入学試験に合格してほめられたとき最もうれしく感ずる人()
- 3) わからない問題を教えてもらつたとき最もうれしく感ずる人()
- 4) 自分のことをかげで心配していてくれるのを知つたとき最もうれしく感ずる人()
- 5) その人から困つている問題をうちあけられたとき最もうれしく感ずる人()
- (B)1) うそをいわれたとき最も腹のたつ人()
- 2) 酒によいつぶれているのをみたとき最も腹のたつ人()
- 3) えこひいき(差別待遇)をされたとき最も腹のたつ人()
- 4) 文句をいわれたとき最も腹のたつ人()
- 5) 死なれたら最も悲しくなる人()

III 結 果

父、母、友達、教師との情緒的關係

質問[1]においては、「自分の都合は悪くても、その人のためならつくしてあげたい人」とか、「何かにつけてすぐ考えに浮ぶ人」などの質問によつて、父、母、友達、教師に対する情緒的な親近感、疎遠感をみている。これらの質問は、質問[2]にくらべれば、日常の具体性をかく、抽象的な質問といえよう。

(1) 大西誠一郎、久世敏雄青年一両親関係—心理的離乳その4—大分県立芸術短大紀要才1巻1962

表1の1は、(A)、(B)、それぞれ五問の合計(2)を、父、母、友達、教師について、学年別、性別に百分率で

(2) 本来ならば一問ごとの整理結果もあわせ提示すべきであるが、つぎの二つの理由から省略している

- 1) 紙数の関係から
- 2) 各1問ごとの反応は大体において相似た結果を示しているから

示した表である。表1の2は、学年別、性別の百分率を父、母、友達、教師間に関して検定した結果である。表1の3は、学年別、性別の百分率の差を、父、母、友達教師別に検定した結果である。

表1の1、表1の2、表1の3から

- 1) 青年たちが、もつとも親近感、親しさを感じているのは、中学生の場合、男女ともに、母に対してである。

表1の1 情緒的な関係(1)(2) (%)

		中 学						高 校						大 学			
		1		2		3		I		II		III		1		2	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
親しい場合 (A)	父	16.8	14.4	19.7★★	10.6	12.5★	5.4	11.1	9.1	9.7	6.7	4.7	8.1	8.1	5.5	10.7	7.8
	母	26.1★★	38.2	34.8	39.0	34.0★★	47.5	22.7★★	42.1	25.4★★	43.2	24.7★	33.0	33.7	34.3	29.3★★	43.4
	友達	20.4	15.6	19.4★	26.1	26.3	28.9	32.4	29.7	30.5	28.7	37.5	31.9	28.2★	37.7	40.0★★	26.6
	先生	7.1	5.9	3.0	3.9	6.3	7.9	4.1	2.4	0.8	2.3	3.3	1.9	1.5	4.9	0.7	1.3
	なし	19.6	25.6	23.0	19.7	20.6★★	8.9	29.7★★	15.6	33.6★★	18.8	27.6	24.7	25.9★★	16.1	19.3	19.7
親しくない場合 (B)	父	10.7	12.4	7.0	10.0	13.7	8.9	11.6	10.3	10.5	11.6	12.4	10.5	10.7★	16.9	15.0★	8.8
	母	5.0	6.2	8.2	3.9	3.0	4.1	1.6	2.6	1.8	2.9	2.9	2.8	0.4	2.3	4.3	2.2
	友達	8.6	10.3	10.6	8.7	11.9	14.0	9.5	9.4	5.9	9.9	8.7	9.3	7.4★	13.8	7.1★	13.4
	先生	37.9	37.4	41.5	36.5	47.2	54.3	31.4★	39.1	40.5	40.9	37.8	43.3	38.5	35.8	37.9	47.2
	なし	37.9	33.2	30.6★	39.7	24.2★	17.1	45.7★	37.4	40.8	34.5	36.4	33.3	40.7★★	28.6	35.0★	25.6

- (1) 無記入者は省略してある。
- (2) 表中★、★★は男女の間にそれぞれ5%、1%水準で有意な差の認められたものである。以下★、★★印に関しては同様である。

表1の2 情緒的な関係(1) (父、母、友達、先生間の学年別、性別の%の差の検定)

		中 学			高 校			大 学	
		1	2	3	I	II	III	1	2
親しい場合	男	母>>父、 先生=友達	母>>父、 友達>先生	母>友達>> 父>先生	友達>>母>> 父>先生	友達、母>> 父>先生	友達>>母>> 父、先生	母、友達>> 父>先生	友達>母>> 父>先生
	女	母>>父、 友達>先生	母>>友達> 父>先生	母>友達>> 父、先生	母>>友達>> 父>先生	母>>友達>> 父、先生	母、友達>> 父>先生	友達、母>> 父、先生	母>>友達>> 父、先生
親場しくない	男	先生>>父、 母、友達	先生>>父、 母、友達	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母	先生>>父> 母=友達	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母
	女	先生>>父>母 =友達	先生>>父、 友達>母	先生>>友達 >父>母	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母	先生>>父、 友達>母

- (1) 父、母、友達、先生間の%の大小は不等号の向きで示してあり、不等号一つの場合 (>) は5%、二つの場合 (>>) は1%水準で有意な差の認められたものである。なお (=) は両者の間に有意差のみられない場合である。以下、表2、表3についても同様である。

表1の3 情緒的な関係 (1)

		父						母							
		中学		高校			大学		中学		高校			大学	
		2	3	I	II	III	1	2	2	3	I	II	III	1	2
中学	1		★	★★	★			○	○						
	2		★	★★	★★	★★	★		○	★★	★	★★			
	3				★					★★	★	★★			
高校	I				★								○○	○	
	II												○		
	III												○		
大学	1														

(1) 表中○、○○は高学年が低学年よりもそれぞれ5%、1%水準で多いことを示す。また★、★★は高学年が低

表1の3 情緒的な関係

		父						母							
		中学		高校			大学		中学		高校			大学	
		2	3	I	II	III	1	2	2	3	I	II	III	1	2
中学	1														
	2		○				○	○		★	★		★		
	3						○								
高校	I						○								
	II														
	III						○								
大学	1													★	

ついで、友達、父、先生の順になつている。ところが高校生になると、男子は友達に対して、もつとも親しみを感じ、つぎに、母という順になつている。女子においては、やはり、母に対してもつとも親しみを感じ、ついで、友達という順である。大学生においては、男子の場合、高校生と同様、友達にもつとも親しみを感じ、ついで母、女子の場合、母にもつとも親しみを感じ、ついで友達に親しみを感じている。要するに、中学生では、男女とも母に対して、もつとも親しみを感じ、高校生、大学生になると、男子は友達に、女子は母に対して、もつとも親しみを感じている。

これに対して、もつとも親しくないのは、各学年、男女とも、圧倒的に先生に対してである。

2) 年齢差に関しては、全般的にみて、あまり顕著な差異はみられない。ただ、友達に対して、中学生から高校生、大学生になるにしたがい、とくに、男子の場合より親しみをもつ傾向がある。

3) 男女差に関しては、女子は男子に比べ、各学年とも、母に対して、より親近性を示している。また、これらの質問に対して、親近性、疎遠性を示す人「なし」と答えたものは、男子の方が、女子よりも多い。

つぎに、同じく対人関係の情緒的親近性、疎遠性をみる問題、質問〔2〕において、「誕生日に贈物をもらったとき」「入学試験に合格してほめられたとき」……もつともうれしく感ずる人は誰か。また、「うそをいわれたとき」、「酒によいつぶれているのをみたとき」、「

えこひいき（差別待遇）をされたとき」……もつとも腹のたつ人は誰かという質問をした。これらの質問は、質問〔1〕にくらべると、比較的具体的な問題を提示していると考えてよからう。

表2は、質問〔2〕の(A)の各質問ごとに一親近性を示す問題一学年別、性別の百分率を、父、母、友達、教師間に関して検定した結果である。表3は、質問〔2〕の(B)の各質問ごとに一疎遠性を示す問題一学年別、性別の百分率を、父、母、友達、教師間に関して検定した結果である。

表2、表3から⁴⁾

1) まずオ1に、各質問(項目)によつて、父、母、友達教師に関して、かなり差異がみられる。質問(A)の場合でも、質問(B)の場合でも、ある項目では母が、ある項目では父が、また、ある項目では友達が、もつとも多く選ばれている。さらに、それらの項目をみると例えば、「自分のことをかかげで心配してくれるのを知ったとき」もつとも嬉しく感ずるのは、母に対してであり、「困つている問題をうちあげられたとき」もつとも嬉しく感ずるのは、友達に対してである。また「

(3) ただし「死なれたらもつとも悲しくなる人」を除く。

(4) 本来ならば、各質問ごとの頻数ないしは百分率、さらに、学年別、性別の検定結果を提示すべきであるが、紙数の都合上省略をした。結果の記述に際しては、これらの結果も参照しながら述べることにする。

表2 情緒的な関係(うれしい場合)一父、母、友達、先生間の学年別、性別の%の差の検定一

		中 学			高 校			大 学	
		1	2	3	I	II	III	1	2
誕生日に贈物を もらったとき	男	父、母>友 =友達	母>友>先 >父	友>父、先 =母	友達>父、 母>先生	友>母>先 =父	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生
	女	母>父>先 =友達	友>父>先 =母	友達、母> 父、先生	友達>父、 母>先生	友>母>先 =父	友>母>先 =父	友達>父、 母、先生	友達>父、 母>先生
入学試験に合格 してほめられた とき	男	父>友達 =母、先生	父、母、先 生>友達	母>友、先 =父	母>父>友 =先生	母、父>友 =先生	母>先、友 =父	友、母>先 =父	母>友、先 生=父
	女	父、母、先 生>友達	父、母、先 生>友達	母>先>友 =父	父、母、先 生>友達	母>父>友 =先生	父、母>友 達、先生	父、母>友 =先生	父>先>友 =母
わからない問題 を教えてもらつ たとき	男	先>友>父 =母	友>父、母 =先生	友達、先生 >父、母	友達、先生 >父、母	友達>先生 >父、母	友達、先生 >父、母	友、先>母 =父	先>父、母 =友達
	女	先生>父、 母、友達	先>父>母 =友達	友達>先生 >父、母	先生>友達 >父、母	先生、友達 >父、母	友達、先生 >父、母	先生>友達 >父、母	先>父>母 =友達
自分のことをか かげで心配してく れるのを知つた とき	男	母>父、友 達、先生	母>父、友 達、先生	母>父、友 達、先生	母>父、友 達、先生	母>父、友 達、先生	母>父、先 =友達	母、友達> 父、先生	友>父、先 =母
	女	母>父、友 達、先生	母>友達> 父、先生	母>友達> 父、先生	母>父、友 達、先生	母>父、友 達、先生	母>友>先 =父	母、友達> 父、先生	母>父、友 達、先生
その人から困つ ている問題をうち あげられたとき	男	友>父、先 =母	友達>父、 母>先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生
	女	友達>母、 父、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生	友達>父、 母、先生

表3 情緒的な関係（腹のたつ場合）一父、母、友達、先生間の学年別、性別の%の差の検定一

		中 学			高 校			大 学	
		1	2	3	I	II	III	1	2
うそをいわれたとき	男	友達>>父、母、先生	友達>>先生>父、母	友達>>先生>父、母	友達>>父、母、先生	友達>>先生>父、母	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生
	女	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生	友達>>父、母、先生
酒によいつぶれているのをみたとき	男	父>>母、友、先生	父>>母、友、先生	父>>先>友、母	父>>母、友、先生	父>>先生>母、友達	父>>先生>母、友達	父>>先生>母、友達	父>>先>父、母、友達
	女	父>>母、友、先生	父>>母、友、先生	父>>先>友、母	父>>母、友、先生	父>>先生>母、友達	父>>母、友、先生	父>>先生>母、友達	父>>友、母、先生
えこひいきをされたとき	男	先生>>友達>父、母	先生>>父、母、友達	先生>>父、母、友達	先生>>友達>父、母	先生>>父、母、友達	先生>>父、母、友達	先生>>父、母、友達	先生>>父、母、友達
	女	先>>友>>父、母	先生>>友達>父、母	先生>>友達>父、母	先生>>父、母、友達	先生>>父、母、友達	先生>>父、母、友達	先生>>友達>父、母	先生>>友達>父、母
文句をいわれたとき	男	友>>父>>先、母	友、先>>母、父	友達>>先生>父、母	父>>先生、母、友達		父>>母、友、先生		
	女	友達>>父、母、先生	友達>>父、先生、母	友達>>父、母、先生	父、母>>先、友、友達	父、母>>先、友、友達	父>>友、先、母	父>>先、母、友、友達	友達>>先生、父、母
死なれたらもつとも悲しくなる人	男	父、母>>友、先生	母>>父>>友、先生	母>>父>>友、先生	母>>父>>友、先生	母、父>>友、先生	母>>父>>先、友、先生	母>>父>>友、先生	母、父>>友、先生
	女	母>>父>>友、先生	母>>父>>友、先生	母>>父>>友、先生	母>>父>>友、先生	母>>父>>先、友、先生	母>>父>>先、友、先生	母>>父>>友、先生	母>>父>>友、先生

うそをいわれたとき」もつとも腹のたつのは、友達に対してであり、「えこひいきされたとき」もつとも腹のたつのは、先生に対してである。これらの反応をみると、日常の諸体験をもとにして判断したと思われる点が多い。

- 質問(A)に関してみると、年令的に差異のある項目は、「誕生日に贈物をもらつたとき」、「自分のことをかかげで心配してくれるのを知つたとき」、「その人から困っている問題をうちあけられたとき」の各項目である。これらの項目は、何れも友達を選択する場合が増加しているのであるが、前の二問は、母が減少し最後の問は「なし」の反応が減少し、友達を選ぶものが増加している。
- 質問(A)の男女差に関しては、女子が男子よりも、「わからない問題を教えてもらつたとき」の教師に関して、「困っている問題をうちあけられたとき」の友達に関して、多く反応している。
- 質問(B)に関して、年令的な差異をみると、「酒によいつぶれているのをみたとき」の父に対して一とくに男子の場合一、また、「文句をいわれたとき」もつとも腹のたつ項目における友達は、年令の増加とともに、減少する傾向がある。
- 質問(B)の男女差に関してみると、「うそをいわれたとき」もつとも腹のたつ人の友達、「えこひいきされたとき」もつとも腹のたつ人の教師、「死なれたらもつとも悲しい人」の母は、何れも、女子の方が男子よりも多く反応している。これに対して、「死なれた

らもつとも悲しい人」の父に関しては、男子の方が女子よりも多く反応している。

V 結果の要約ならびにその考察

われわれは、この論文で、青年たちが、父、母、友達教師といかなる情緒的な関係にあるかを明らかにしようとした。それらの結果によれば

- 比較的通常の具体性をもたない質問によつて、親近感、疎遠感をみると、まず、中学生の段階では、母に対してもつとも親しみをもっている。高校生ごろから男子は友達に対して、もつとも親しみをもつようになるが、女子は、いぜんとして母に対してもつとも親しみをもっている。もつとも親しくない、疎遠な関係にあるものは、教師であり、これは各学年を通じていえることである。
 - 通常の具体的な体験を反映する質問によれば、質問する事柄、項目によつて差異がみられる。ある場合は母が、ある場合は友達が、ある場合は教師がもつとも親しみを感じられている。疎遠性、腹だたしさを感じる対象としては、それぞれの項目ごとに、友達、父、教師があげられる。
 - 青年たちは、中学生から高校生、大学生になるにしたがい、友達に親しみをもつものが増える傾向がある。しかし、全般を通じてみれば、やはり母に対して、もつとも親しみをもつものといえよう。とくに女子においては、そうした傾向が顕著である。
- 以上が結果の要約であるが、これらの結果を相談者と

しての関係と対比させながら、考察してみよう。前の報告において、母と友達が、相談者として比較的全般にわたって相談されるという結果が示されたが、このことは一面、情緒的な関係と関連があるものと考えてよからう。情緒的にみた場合、もつとも親しみを感ずるのが母親であり、ついで友達であるということ、さらに友達への親近性が、高校から大学になるにしたがって増してくるという事態は、相談者としての母、友達の位置づけと関連をもち、やはり親密感、親しさを覚える人に相談しやすいということであろう。

このようにみえてくると、父や教師に相談する事項が限定されてくるということも、一面理解することができるのである。とくに、教師が一般的にみれば、もつとも親しくない存在であるということ、このことが、教師の存在価値として、学科、教科の知識の豊富な人としてのみみられる所以でもあろう。もつとも、大学の教官ともなれば、事情は多少異なるであろうが、やはり、もつとも親しみのうすい存在であろう。

V 問題の展開

われわれは、ここ数年の間、青年一両親関係を問題にしてきた。そして、二、三の論文を公にしたのであるがここで、青年一両親関係研究の方向を明らかにし、あわせて、今後の見通しを得ようと思う。

従来の青年一両親関係の研究は、大別して二つの方向からなされている。その才1は、青年と両親との関係を両者だけの関係として、かれらの心理現象を明らかにしようとする方向であつた。したがつて、青年の両親に対する反抗的態度⁽⁵⁾⁽⁶⁾とか、感情、知覚⁽⁷⁾、同一化⁽⁸⁾といった面を問題にする場合である。あるいは、両親の青年に対する態度、感情、認知といった側面を明らかにする研究である。さらにまた、研究が可能なら、青年と両親の因果関係を追求する方向が、この分野に属するものと考えてよい。われわれもまた、この方面に関する研究として、青年の両親に対する考え方、感情⁽⁹⁾、さらに社会的態度における親子の比較検討⁽¹⁰⁾をおこなつてきた。し

かし、これらの分野の研究の多くは、ある心理的断面、次元をとりあげて追求はするが、一例えば、親に対する感情とか反抗現象というように一それらの相互関係の研究は、ほとんどなされていない。

さらに、才2の方向は青年と両親との関係を他の人間関係との比較において把握しようとする方向である。他の人間関係といつても、青年の場合、兄弟、友人、教師といつた関係が中心となることは当然である。われわれは、これらの研究方向として、父母や、友達、教師が相談者として、どのように位置づけられるか、また、情緒的な親近感、疎遠感といつた面から、父や母の青年に対する位置づけを考察してきた。しかし、これらの研究はあまりなされていないのが現状である。それだけに、こうした方面からの考察が期待される。

したがつて今後の研究方向としては、

- 1) 青年一両親関係の研究を進めるためにも、広く、人間関係、対人関係といつた側面から分析をする必要にせまられている。今までのわれわれの研究方法は、主として多肢選択法によつてなされてきたわけであるが一步、量的に把握できる方向におし進め、検討することが望まれる。このさい、いろいろな観点から研究を進めることが可能であり、青年が父、母、友達、教師などの誰によりどころ (anchoring point) を求めるか、また、対人的行動といつた面からの分析だとかそれらと対人的認知との関連といつた問題提起の仕方が可能であろう。
- 2) すでに、青年一両親関係の研究において、相互関係の研究の乏しいことを指摘したが、このことは、資料収集にさいしての問題に帰着する。われわれは、さまざまな教育事象、教育現象、あるいは、青年心理といつた問題を取扱う構えとして、横断的な資料収集方法から縦断的方法により、同一個人の成長過程の研究に焦点をおく必要がある。こうした研究の積重ねによつて、有益な知識をうるものが期待されるのである。

(5) 依田新 青年の心理 培風館 1952

(6) 児玉省 青年心理学 日本女子大学通信教育部 1952

(7) 藤原喜悦 青年期に関する心理学的研究 野間教育研究所紀要 才12輯 1956

(8) 西平直喜 「青年一両親関係」の心理学的研究 野間教育研究所紀要 才7輯 1952

(9) 依田新、久世敏雄 青年一両親関係—心理的離乳その2名古屋大学教育学部紀要才4巻 1958

(10) 依田新、久世敏雄 青年一両親関係—社会的態度における親子の関係教育心理学研究6巻4号 1959